

# SNS時代における社交性との因果関係に関する一考察

阿部友美 (22111015ta@tama.ac.jp), 佐藤大夢 (22111161hs@tama.ac.jp)

## 1. はじめに

本研究は、SNS時代の現代においてSNSでの発信回数が多い人は現実社会においても社会的であるのか調査することを目的とする。SNSは利用するものの、現実社会で社会的に振る舞うことに抵抗を感じる人がどれほどいるのだろうか。また、「社会的」といわれる人はSNS二大巨頭であるTwitterやInstagramのどちらをよく使用しているのかを調べる。

中高生のSNS利用率は97%を超えており、SNSを使用していない若者はほぼいない。全年代で9割以上がSNSを利用しており、最もSNSの利用率が高いのは高校生である。企業が若者に対してアプローチするためのツールとしても欠かせない存在となっている。現代の若者にとってSNSはコミュニケーションをとる上で欠かせないツールとなっているのだ。人気のSNSアプリランキングでは1位がLINE、2位がYoutube、3位がTwitter、4位がInstagramとなっている。日常生活の一部をアップし、アクションツールも豊富であるInstagramとTwitterにおいて、SNSと現実世界における社交性はどうか異なっているのか調査していきたい。

## 2. 研究方法

Instagramで128名のフォロワーを調査対象とし、2022年10月22日~23日にGoogleformを用いてアンケートを取った。Instagramを調査のプラットフォームとして選んだ理由はストーリーから気軽に回答することができ、フォロワーの社交度について情報が集めやすいことが挙げられる。

研究方法はSNSの利用状況に関する質問を14問、社交性に関する質問を10問作成し、アンケートを取った。また、集計後にSNSと社交性の因果関係について比較したものをグラフ化した。

## 3. 結果と分析

SNSと社交性の因果関係について比較したものをグラフ化した結果として、SNSを

積極的に利用し、情報を発信している人は人とコミュニケーションを取ることに抵抗を感じないと答えている人は全体の約30%存在した。このことから、SNSを積極的に利用し、情報を発信している人は人とコミュニケーションを取ることに抵抗を感じないと答えている人が傾向にあると分かった。また人と関わることにあまり好意的な印象を持っていない人は30.5%であり、SNSでの発信を積極的に行わない人は29.7%であったことから、コミュニケーションへの苦手意識とSNSでの投稿頻度は比例することが明らかになった。

## 4. 結論

SNS時代の現代においてSNSでの発信回数が多い人は現実社会においても社会的であるのか調査することを目的に研究を行った。私たちはInstagramのフォロワーを調査対象にアンケートを取り、その根拠を元にSNSは利用率と現実社会での社交性が比例していると結論づけた。また、人と関わることに好意的でない人はSNSでの発信回数も少ないということが分かった。

今回の実験の反省として、Instagram以外にも学内の生徒や駅前などで調査をすることが出来れば本研究の説得力が増したと考えられる。

また、アンケートの選択肢をとっても思う、そう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、そう思わないにしまい、リッカート尺度を用いることができなかった。次回アンケートによる実験を行う際には選択肢にも注意していきたい。

## 参考文献

Testee Lab.,「SNS利用に関する調査【2022年版／学生対象】」,2022年,  
[https://lab.testee.co/sns\\_student2022?amp](https://lab.testee.co/sns_student2022?amp)(参照2022-1-18)  
みんなのランキング,「【人気投票 1~19位】SNSアプリ人気ランキング！みんなのおすすめは？」,2023年,  
<https://ranking.net/rankings/best-sns-apps>  
(参照 2022-1-18)